

六鹿JIA会長ら

アルカジア東京大会、JIA大会東京を総括

思考と実践 一歩前進

各国が抱える課題を共有

日本建築家協会（JIA）の六鹿正治会長らは2日、9月10日から15日にわたって開催したARCA SIA（アルカジア）アジア建築家評議会、東京大会とJIA建築家大会東京を総括する会見を開いた。六鹿会長は、両大会の連続開催によるシナジー効果を強調した上で、「アジアの建築家と生産的な1週間を過ごせた。アジアの友人たちと課題を共有しつつ、思考と実践を一歩前に進めることができた」と振り返った。

会的責任委員会は、日本を始め、各国からさまざまな災害における復旧・復興事例が紹介されたほか、建築家の社会責任に関する行動指針を記した7カ条の宣言と、同委員会主催の住宅コンペの実現などを確認した。

グリーン&サステナブル建築委員会は、気候変動と災害への対応を中心に議論が進んだ。このうち、インドは「多様な環境評価システムや水害から総合的危機管理施策」、マレーシアは「持続可能な開発目標の枠組み」、パキスタ

ンは「生物学的環境修復・浄化プロジェクト」、シンガポールは「バイオフィリックデザイン」などのテーマを紹介した。

建築教育委員会は、アルカジア学生コンペのマニュアルや、ウェブ上での加盟国、この主要建築作品の紹介、加盟国間のインターンシップ、学生の作品投稿・評価システムの構築などが議論された。

次世代委員会では、各国に共通する課題として若手の設計機会の減少を挙げつつ、JIAとHKIA（香港建築師学会）、KIRA（韓国建築師建築士協会）間による若手設計者の交換プログラムなどが示された。



左から会見する藤沼傑JIA大会実行委員長、六鹿会長、高階澄人アルカジア大会実行委員長

参加者数は両大会あわせて1600人以上。アルカジアには加盟21カ国と地域のうち、ブータンを除く20カ国・地域が参加。日本を除いて参加者数が多かった国は次回開催地のバングラデシュが113人、パキスタン98人、インドネシア60人だった。

このうち、過去最大の20カ国・地域が参加した建築家職能委員会では、各国地域の課題が報告された。バングラデシュは「建築学科と建築家数が急増する中、質の確保と、エンジニアとの違いの理解」を挙げた。官庁営繕が公共建築を設計監理するアルネイでは「民間建築家が育たない」とした。香港では「設計料の未払いに関する仲裁関連条項の改正」に取り組んでいるほか、2017年に建築士法が施行されたインドネシアでは、建築士がジャワ島に偏在していることから「地方の質の確保」や「設計料の低さ」を問題視。韓国では、業務範囲の拡大に伴う設計料基準改定の検討を報告し、ラオスは「建築士法が未整備」とする一方、タイでは「建築基本法の整備を検討中」と、各国によって建築を取り巻く環境の違いが浮き彫りになった。

また、前回の7カ国を大きく上回る17カ国が参加した社会的責任委員会は、日本を始め、各国からさまざまな災害における復旧・復興事例が紹介されたほか、建築家の社会責任に関する行動指針を記した7カ条の宣言と、同委員会主催の住宅コンペの実現などを確認した。

2018/10/3 建設工業

若手限定のコンペ提案

JIAがアジア建築家会議、全国大会報告

日本のテクノロジーアピール

日本建築家協会（JIA）、六鹿正治会長は2日、先月に都内で開催した「アジア建築家会議（ACA）2018」の成果報告を行った。アジア建築家評議会（ARCA SIA、ジャハ

ンギール・カン会長）にある5つの常置委員会が活動などを報告。「次世代建築家委員会」は、若手に限定した設計コンペを設けるなど設計機会の拡大を提案した。

2年に1度開くACA大会は、ARCA SIAに加盟する21の国と地域の建築家が参加し、環境や防災などの諸課題を議論する。21年ぶりの日本開催となった今回は、東京都千代田区の明治大学駿河台キャンパスを主会場に9月10日開幕。同時開催の「建築家大会2

成果報告する（左から）藤沼委員長、六鹿会長、高階委員長



左から会見する藤沼傑JIA大会実行委員長、六鹿会長、高階澄人アルカジア大会実行委員長

2年に1度開くACA大会は、ARCA SIAに加盟する21の国と地域の建築家が参加し、環境や防災などの諸課題を議論する。21年ぶりの日本開催となった今回は、東京都千代田区の明治大学駿河台キャンパスを主会場に9月10日開幕。同時開催の「建築家大会2

結果報告する（左から）藤沼委員長、六鹿会長、高階委員長

同日、東京・神宮前の建築家会館で会見した六鹿会長は「互いの問題を共有しながら、建築家の思考と実践について一歩前に進めることができた」と成果を強調した。同席した高階澄人ACA大会実行委員長は「日本が持つテクノロジーアピールをアピールできた」、藤沼傑全国大会実行委員長も「地域、世代への広がりを実感できる大会」と手応えを語った。

40歳以下の建築家で構成する次世代委員会は、各国で共通する課題として若手に対する設計機会の減少を挙げた。実績を重視するプロポーザル方式が、設計機会を減らす要因にあると指摘した上で、若手に限定した設計コンペの開催を提案。ARCA SIAと同委員会が積極的に仕組みづくりを働きかけることで一致した。

建築家大会では、大井町駅前（東京都品川区）に整備される公共施設の設計コンペの審査結果を報告。七つの塔で構成する公衆トイレをデザインした金子真介氏（あかるい建築計画）らの作品が選ばれた。

同日、東京・神宮前の建築家会館で会見した六鹿会長は「互いの問題を共有しながら、建築家の思考と実践について一歩前に進めることができた」と成果を強調した。同席した高階澄人ACA大会実行委員長は「日本が持つテクノロジーアピールをアピールできた」、藤沼傑全国大会実行委員長も「地域、世代への広がりを実感できる大会」と手応えを語った。